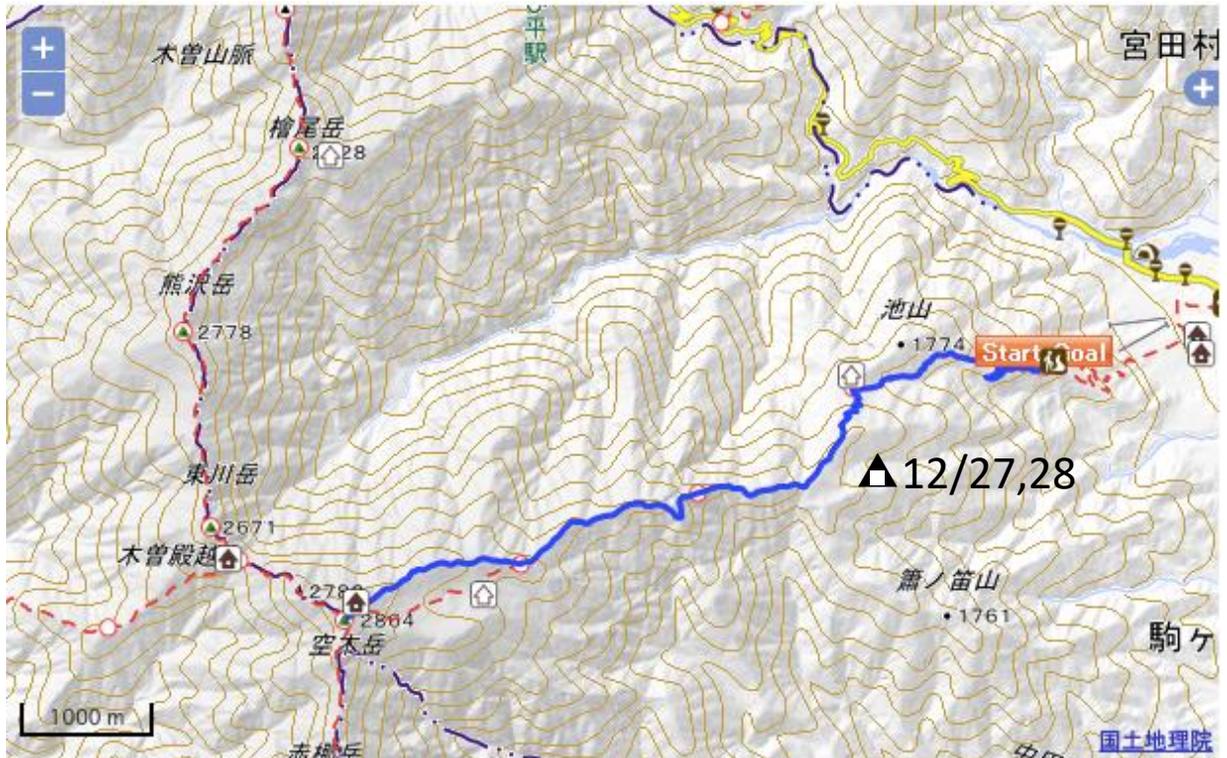


デンソー山岳部 2019年度 冬山合宿報告書

■山域 中央アルプス

■日程 2019年12月27日～29日

■メンバー 小田(CL)、鈴木芳(SL)、岸上(会計)、福岡(装備)、北浦(装備)、谷口(食料)、小堀(記録)



<第1日> 12/27(金) 朝昼小雨 夜晴/強風【北浦記】

【行動記録】行動時間: 3:45

登山道口(07:30) → 林道終点(08:40) → 池上小屋水場(10:00) → 尻無(11:15)

年末とは思えない暖かさと前日から降り続く雨とともに行動開始。徐々に雨が上がるなか林道終点までは全く雪もなく、その後も特筆すべきことの無い登山道が続く。

10:00 池上避難小屋近く水場で水を調達。ここではコップが凍り付いていたとしても顔を近づけて飲むことはおすすめしない。水量が安定せず時々吹き出してびしょ濡れになる。

11:30 行動終了。当初マセナギで設営の計画であったが雪不足のため少し戻り尻無で設営。携帯の電波状態は3社とも良好。

そのまま宴会になだれ込み、めいめいポップコーンなど肴を持ち込み楽しむ。愉快的K上さんは初冬合宿にテンションが上がったのか2時間ほどで焼酎0.5L以上を空け後半は正体不明と化していた。

時折突風が吹く中16時過ぎから夕食(鍋)を開始。生の野菜と肉を楽しめるのは冬山ならではの。最後は少しUNOをして就寝@19:30。

<第2日> 12/28(土) 晴れ【小堀 記】

【行動記録】行動時間: 10h

尻無発(06:00) → 大地獄・小地獄→ヨナ沢の頭(9:30)→駒石(11:50)→空木岳山頂(13:00) → 尻無(16:00)

前日の晩は風が強く少々天候に不安があったが朝は風も弱まっていた。少し安心してまだ暗い中テントを出発した。徐々に空が白み、雲ひとつない青空に変わっていく。斜度がついてきたので途中でアイゼンを装着する。大地獄・小地獄は斜度のきつい鎖場でアイゼンの歯をきちんと噛ませながら登っていく。これには事前に南山で練習をしたアイゼンワークが役に立ったように思う。非常に天気がいい中気持ちよく進んでいくと少し雪の深いトラバースにつく。滑り落ちないように注意しながら鈴木さんを先頭に慎重に雪を踏み固めながら進む。



その後も何度かトラバースがあり、思うようにペースが上がらない。ヨナ沢の頭までは夏道でトラバースを通っていく予定だったが雪が深く危険なため途中から直登ルートに切り替えた。ヤブの多い急な道を切り開いていく小田さんはとても頼もしい。ヨナ沢の頭から先は徐々に雪が増えてきたため皆で軽いラッセルをしながら進んでいく。個人的に初めてのラッセルだったためとても楽しくできた。また、ラッセルをする列の先頭と後ろとで全く疲労度が違うことを体験できた。

尾根を進んでいくとさらに雪が深くなってきたためワカンも装備して進んでいく。岸上さんはスノーシューを装着しており、すこぶる軽快に先頭を切って進んでくれた。しかし、スノーシューの跡をワカンで踏むと沈んでしまうため後ろからついていくのも苦労した。樹林帯を抜けるとすぐ先に空木岳が見えた。この時点で時間は11時を回っていたため少しペースを上げて登っていく。

稜線上は風が強く右に左に振られながら登っていく。激しい風と途中のラッセルで体力を奪われたためか徐々に隊列が分断されていってしまった。山頂までは行けないかと思われたが、小田さんの行けるところまで行こうという声に励まされ13時前に駒峰ヒュッテに到着。駒峰ヒュッテに荷物をデポして山頂まで一気に登る。下山のタイムリミットであった13時丁度に山頂に到着。最高の天気の中全員で登頂できたことで嬉しさもひとしおであった。記念撮影もそこそこに、山頂からの美しい景色に後ろ髪を引かれながら下山していく。



テントに戻るとすぐに夕食の準備にとりかかった。夕食は前日と同様鍋である。しかし、鍋の具材や味が違うため全く飽きることなく美味しく頂いた。特に雪山で疲れた体には鍋が一番であると感じた。談笑しながら夕飯を食べ終わると少し眠くなってくる。気づくと前日と同じように真っ先に岸上さんが夢の中にいた。この日はUNOをする元気もなく皆すぐに深い眠りについた。

<第3日> 12/29(日)晴れ【谷口 記】

【行動時間】2H

尻無発(6:30)→池上小屋水場(7:00)→林道終点(7:45)→林道ゲート前駐車場(8:30)

5:00頃起床。昨日同様暖かくよく寝られた。すぐにお湯をわかし朝食をとり、その後撤収にかかる。撤収をしているとこれから登って行く数人とすれ違う。昨日は全く人の気配がなかったが、今日は登る人が居るようである。

6:30頃撤収完了し出発。雪のある登山道を軽快に下っていき、池上小屋水場で休憩。久しぶりの水場、雪でない水を飲める。しかし水場備え付けのカップが氷の中で凍結しており、取り出せない。このカップをピッケルで発掘したものの、発掘を待てない者はそのまま口を蛇口につけてがぶ飲み。

さらに登山道、林道を下っていく。林道終点あたりから雪はない。一部林道から登山道に入るのを忘れ引き返す部分はあったものの、8:30頃問題無く駐車場まで到着。朝早くから日帰り入浴が可能だったこまゆき荘へ寄り、帰路についた。



凍結したカップを救出する



朝日に照らされながら下る

【食料】(谷口)

	12/27(金)	12/28(土)	12/29(日)
朝食	各自	各自 (お湯は沸かす)	各自 (お湯は沸かす)
昼食	各自	各自	各自
夕食	豚みそちゃんこ鍋 ×のうどん	濃厚白湯鍋 ×のちゃんぽん麺	非常食
その他	おつまみ、お酒、ドリンクは各自用意		

- ・ 鍋の野菜、肉はあらかじめカットし、日毎、鍋毎に分けて用意した。
- ・ ×の麺は各日6玉と多く用意しすぎたものの、協力により完食された。
- ・ 味の調整ができるように小分けの調味料を用意しておくとうい。
- ・ 雪の量が少なく、うわべだけを溶かしたとしても浮遊物の多い水になってしまった。福岡さんの持っていたコーヒーフィルターで濾過できたのがよかった。

不破さん、牛しぐれの差し入れありがとうございました。

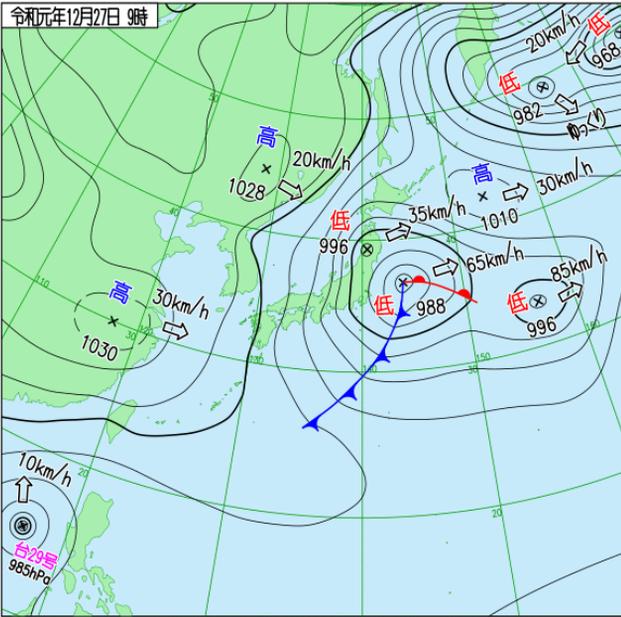


【装備】(北浦、福岡)

計画した装備に対し、駐車場での雪の少なさから、ロープは予定していたΦ8×50mからΦ8×30mに変更した。それ以外は過不足なく、必要十分な装備が準備できたものの、気づいた点を下記に示す。

- ・今回は雪が少なく、木の枝葉が見えている状態の場所に幕営したため、溶かす雪に多量の枝葉が混入していた。そのため、個人として持っていたコーヒー用のドリッパとペーパーフィルタで溶かした雪を濾過し、料理および飲料用として用いた。
- ・テントは計画書ではダンロップV8、ファイントラックK2としたが、V8のみを使用した。
- ・ガスの使用量は、持ち込みが800g(大1.7缶)に対し、残100g(大0.2缶)であった。これは、一日目の幕営地完了時間が14時頃と早かったため、ガスの使用時間が長かったためである。遭難時用等を考慮し、プラス0.5缶ほどあってもよいと考える。
- ・ランタンとしてソーラーパフ1、BD Voyager1を準備した。1日目はソーラーパフが明るく調子が良かったが、二日目はソーラーパフの充電が切れたため、BD Voyagerに加え、小田CL持参のランタンを使用した。ソーラーパフは2日目の行動中、ザックにつけて充電していたが、樹林帯が長かったためか、上手く充電されなかったようである。メンバからは幕営地に置いておいたほうが充電されたかもしれないとの意見もあり、ソーラーパフを連泊で使用する際は2日目の充電を十分考慮する必要である。

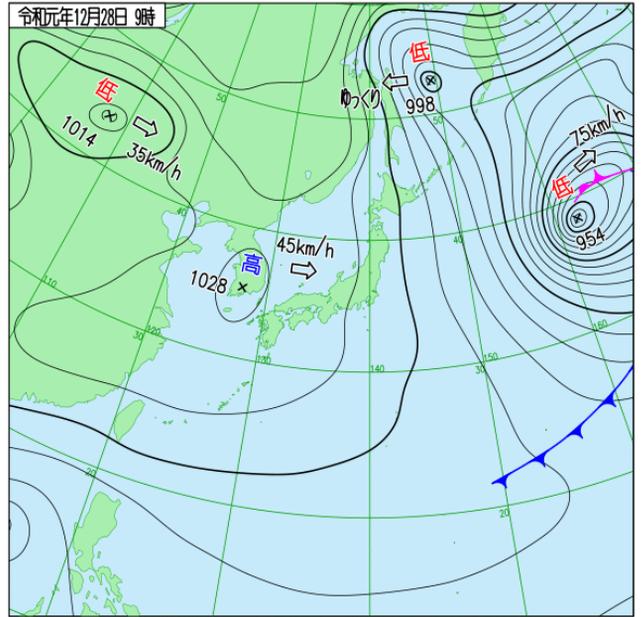
【気象】(鈴木)



<第1日>12/27(金)

雨時々曇り(高所雪)

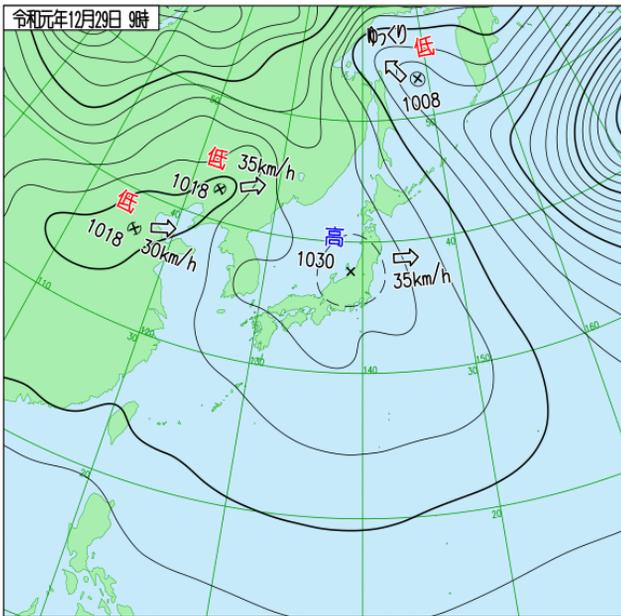
林道ゲートより終点までは小雨によりかなり濡れるも標高を上げると雪に変わり、尻無(テント場)では、時折突風が吹いた。



<第2日>12/28(土)

晴れ

1日中好天。冷えこみは、厳しいが視界良好稜線は風が強く、真っすぐ歩行困難。(瞬間風速24m/s)



<第3日>12/29(日)

晴れ

冷えこみも緩く、雲一つない晴天
素晴らしい天候で下山するのがもったいない

【会計】(岸上)

車代	鈴木	12400円
	福岡	12400円
食料	谷口	5000円
合計		29800円
		4300円/人

【SL感想】鈴木

今回7名のパーティーで、新人が多かったが、体力的には問題なく、ラッセル時には交代しながら進めた。山頂間近で自分を含め持久力不足となり隊列は長くなるも、何とか全員で登頂できて嬉しかった。

時間的にも13時下山がギリギリで無理かと思ったが、小田CL「時間ギリギリまで頑張ろう！」の言葉に、皆共感し強風と寒さの中、最後まで頑張りとおせた。

稜線上でのトレース無き時のルートファインディングは、経験値が少なく迷いがあり、小田CLに先導していただいた。

冬山合宿は3回目だが、毎回得るものがあり経験値を上げることが出来た。

来年も、参加したい。

【感想】

初めての冬山合宿。初めての雪山テント泊。雪山での日帰り個人山行は何度か登っているものの、勝手が違った。CL/SLや同行メンバーに、いろいろと教わる事が出来たので、この経験を活かしていきたい。今後は雪訓にも積極的に参加していきます。(岸上)

膝上から腰までのラッセル、トラバースを避けたルートファインディングなど、昨年に続き学ぶことの多い合宿でした。新雪期で締まっていない雪歩きや、森林限界付近でのワカン歩行など、多種多様なルート状況を味わうことができ、夏に登頂したときと比較し倍以上の距離に感じました。今回の経験から、新雪期の登山経験と体力の不足を痛感したため、それを補う山行を意識して今後も経験値を上げていきたいと思えます。ご一緒した皆様、留守部員の皆様、ありがとうございました。(福岡)

登ってからは天候もよく、初ラッセルも体験でき、冬山らしいことをできて楽しい合宿であったが、体力強化が課題であることを実感した合宿でもあった。慣れない装備と初ラッセルにはしゃいで体力を使い果たしたのか、山頂では息も絶え絶え、下りも皆に遅れをとってしまった。あとで写真を見返すと山頂は大変景色がよかったのだが、そんな余裕もなく、残念だった。次回は余裕綽々と登れるようにしたい。(北浦)

今年から本格的に始めた雪山で、メンバーのサポートが有り、また天候にも恵まれ無事こなす事ができたと思う。装備は合宿に合わせて揃えたがまだ足りない物があり、改善が必要と感じた。山頂付近は一步一步がとても重く、また風が強く景色を見ている余裕がなかったが、後から撮った写真を見るととても良い景色だったのが印象的だった。今後も経験を重ねて雪山の様々な魅力を楽しんでいきたい。(谷口)

雪山でのテント泊は雪訓以来二度目の経験だったので冬山合宿はとても楽しみにしていました。実際に登ってみるとやはり重い荷物を背負って雪道を歩く大変さが身にしみ、縦走することを考えるとより一層の体力が必要になるように感じました。初めてのラッセルや稜線上での強風に煽られながらの登山などはとても楽しく終始ワクワクしっぱなしの本当に楽しい山行でした。小田CLを始めメンバーの方々に恵まれ無事山行を終えることができたと思えます。みなさんに感謝するとともに今後もどんどん一緒に山に登りたいです。(小堀)

【CL総括】小田

今回は冬山経験の少ないメンバーが多い山行であったが、天気にも恵まれた中で、事前のアイゼントレや雪訓での経験を活かしながら順調に登頂することが出来たと思えます。トレースのない新雪のルートでの山行の中で、各人自らに足りないものを感じ取ると共に、登頂できた時の充足感を感じられたのではないかと思います。今回の経験を今後の山行に活かしてほしいと思えます。今回も非常に充実した山行で、大変楽しいものでした。好天と同行メンバー、サポート頂いた皆さんに感謝。また皆で山に行きましょう。